

# 普及だより



庄内総合支庁産業経済部 農業技術普及課 / 同 産地研究室  
〒999-7601 鶴岡市藤島字山ノ前51  
TEL:0235(64)2103

〒998-0112 酒田市浜中字八窪1  
TEL:0234(91)1250

## 2023 受賞おめでとうございます!

### 令和5年春の叙勲 旭日単光章

松浦 敏さん(鶴岡市)



県指導農業士として、長年にわたり、地域の後継者育成に大きく貢献されました。地域営農では、集落営農組合の立ち上げ、およびその法人化に尽力し、代表として構成員の経営発展と地域農業の振興にリーダーシップを発揮してこられました。これらの顕著な功績が評価され受賞となりました。

### 山形県 ベストアグリ賞

有限会社とうファーム  
(鶴岡市)



本経営体は、平成15年に設立した法人です。現在は水稲15ha、えだまめ8ha、なめこ約34万瓶の3品目を中心に栽培を行っており、社員8名を毎年雇用しています。リスク分散を熟慮した農業経営を実践しているほか、えだまめ栽培の規模拡大や堅実な生産管理は、地域農業者の模範となっています。

### 大高根農場記念 山形県農業賞

行沢とちの実会(鶴岡市)



昭和56年から約40年間、朝日地域の特産品として伝統の味「とちもち」を継続して加工販売し、地域資源を活かした女性起業事例として地域内外の組織をけん引してきました。

また、集落の共有林であるトチ林の保全活動や、山里の食文化の保存に向けた食育活動などを通して、中山間地域の活性化に貢献されています。

## 今年度、新たに認定された農業士の皆さんをご紹介します

山形県指導農業士



小泉 忠明さん  
(鶴岡市)  
水稲+大豆+果樹等



渡部 修さん  
(鶴岡市)  
水稲+そば+果樹

山形県青年農業士



佐藤 裕太さん  
(庄内町)  
水稲+大豆+花き等



坂野 広幸さん  
(三川町)  
水稲+大豆

## 開催案内

2024米づくりフォーラムin庄内  
~令和5年の高温少雨の経験から学ぶこと~

日時: 令和6年1月10日(水)13:30~  
場所: いろり火の里 なの花ホール  
(三川町横山)  
定員: 200名程度

庄内砂丘メロン生産者  
研修大会2024

日時: 令和6年2月7日(水)14:00~  
場所: 三川町子育て交流施設  
テオトル 多目的ホール  
定員: 100名程度

山形枝豆日本一  
産地化プロジェクト  
庄内支部研修会

日時: 令和6年1月24日(水)14:00~  
場所: 鶴岡市農村センター  
定員: 100名程度

参加申込や詳細は当課までお問合せください TEL: 0235-64-2103 FAX: 0235-64-2104



### 庄内柿摘蕾講習会

庄内柿の大玉生産には、開花前からの早期着果制限が重要です。今年の気象状況に応じた庄内柿の大玉安定生産を支援するため、5月18日に摘蕾講習会を開催しました。

## 今年は、良い年でありますように!

普及推進主幹 野 仲 学

新年、明けましておめでとうございます。

令和5年は、一年を通して異常気象の続く年でした。とりわけ8月の猛暑の影響は大きく、水稲では作況指数が99と平常並みであったものの、一等米比率はこれまで経験したことのない低い結果となりました。また、多くの園芸作物、畜産等でも収量、品質の低下や家畜暑熱事故が見られました。一方、担い手では、新規就農者数が378人と山形県が8年連続東北で最多となるという明るい話題がありました。

令和6年は、辰(たつ)年、中国では縁起の良い動物として親しまれ、日本では「登り竜」等良い言葉の意味で多く使われております。ぜひ、良い

年であってほしいと願っています。

当課では、異常気象下でも農業者の栽培管理に役立てるよう、衛星リモートセンシングを使った「つや姫」の穂肥診断や食味・収量点検マップ、ハウスきゅうりの環境モニタリング等新しい技術の実装に向け取り組みます。また、令和5年度に立ち上がった稲SGS生産組織や地域資源を活用した加工品開発等の新たな取組み、新規就農者やトップランナー育成への支援も行います。

農業者の皆さんが、今年もやる気をもって農業経営に取り組めるよう、関係機関とともに支援してまいります。

## ストップ農作業事故!

- ①施設の点検や除雪作業は、施設の倒壊等の恐れが無いが、作業する足もとに危険は無いが、落石の恐れが無いが等、安全確認を十分に!
- ②万一の事故に備えて複数名で作業を!!

## 農薬は適正に使用しましょう!

- ☆農薬のラベルは必ずよく読み、定められた使用方法で!
- ☆生産履歴の記帳、農薬飛散の防止、防除機具の洗浄を徹底!

# 2023 普及 活動トピックス

農業技術普及課では、水田営農の確立、園芸作物の生産性向上、耕畜連携、6次産業化等の取組みを支援しております。令和5年度の主な活動を紹介します。

## 大豆の収量向上支援



実証展示圃における大豆栽培技術現地検討会（7月5日 鶴岡市）

大豆の収量向上のために、安定多収技術の推進に取り組んでいます。

昨年は、多収実証圃にて現地検討会を開催し、干ばつ等に対応した栽培技術を紹介するとともに、大豆の摘芯技術の実演を行いました。また、検討会では参加者同士で活発な意見交換がなされ、技術に対する質問や期待が寄せられました。

## えだまめの産地強化に向けて



えだまめの高品質良食味生産に向けた圃場巡回（6月15日 鶴岡市）

当産地では、えだまめの良食味生産によるブランド力向上に取り組んでいます。そこで、近赤外線分光法（光センサー）で食味成分を評価しつつ、良食味生産に重要な適期管理等を推進しています。また、大規模化に対応した収穫機械の評価や、安定生産に向けた実証圃の設置など、今後も産地強化に向けた取組みを実施します。

## 大粒系ぶどうの導入支援



果樹実践講座の様子（10月5日 庄内産地研究室）

大粒系ぶどうの導入を支援するため、栽培の基礎知識、基本技術の習得を目的とした実践講座を開催しています。今年度は17名の受講生に対して、栽培が省力的で、初心者の方でも取り組みやすい「シャインマスカット」の短梢仕立てをテーマに、年間作業のポイント等を解説しています。今後も現地指導や実践講座を通して大粒系ぶどう生産を支援していきます。

## トルコぎきょうの 土壌病害対策支援



土壌病害から回復した圃場（8月3日 庄内町）

大きな減収要因である土壌病害を克服するために、病害対策の実施を推進しています。土壌消毒に加え、土壌改良や排水対策など複数の対策を実施した圃場について調査した結果、病害発生率は大幅に減少し、出荷率は9割以上に回復しました。当課では、今後も土壌病害の低減による出荷率および出荷本数の向上を目指して支援していきます。

## 地域産飼料の生産利用取組み支援



地域産飼料SGS（ソフトグレインサイレージ）製造の様子（10月11日 庄内町）

近年、ウクライナ情勢や急激な円安により流通飼料等の価格が高騰し、畜産経営の課題となっています。そこで、生産コストに大きく占める飼料費の低減と地域内耕畜連携による持続可能な畜産の確立を図るため、当課では新規生産組織による飼料SGS（ソフトグレインサイレージ）生産利用の取組みを支援しています。

## 生産者の経営管理能力の 向上を支援します！



第2回「庄内デジタル経営塾」の様子（10月27日 当課）

庄内全地域の関係機関で農業経営・就農支援チームを設置し、新規就農者の育成、経営体の経営改善に取り組んでいます。今年度は新たに「庄内デジタル経営塾」を開催し、若手農業者26名を対象に経営管理ツールを活用した経営管理のデジタル化について学んでいます。

## 農産加工品の 加工技術継承をめざして



手習い塾「梅干し」の様子（7月5日 当課）

笹巻や漬物等の農産加工品は直売所等の人気商品ですが、最近作り手が減少しています。当課では、それら加工技術の継承を目的に、地域のベテラン加工者が講師の「手習い塾」を開催しています（※令和5年度は「梅干し」と「あられ・かたもち」をテーマに開催）。今後、農産加工を事業として始めてみたい方は、当課まで相談下さい。

## 産地研究室の研究紹介

### 商品収量が多く外観が優れる 四季成り性イチゴ「山形S7号」

昨年10月に出版公表された「山形S7号」は、イチゴの生産に不向きな夏期高温期においても、安定した収量や品質が期待できる四季成り性イチゴです。昨夏のような長引く猛暑でも他品種に比べ果実硬度や日持ち性が高く、草勢回復は同等以上でした。

更なる高品質安定生産を図るため、高設ベンチ栽培における管理方法、苗増殖方法や新作物型開発に取り組んでいます。



「山形S7号」の果実（産地研究室圃場）